

屋久杉の歴史と島の暮らし

報告者：鎌田道隆

1. 「屋久杉」の語にはどんな意味が込められているのでしょうか

「屋久杉」の研究史

- ヤクスギという名称・・・その歴史
- 薩摩神代杉とは
- 今日の屋久杉
 - ・銘木「屋久杉」
 - ・観光用語（千年以下を小杉ってすごい）
 - ・学術用語としてのヤクスギはない

2. 大昔の屋久島人がなぜ『日本書紀』に出てくるのでしょうか

～海洋活動が盛んだった古代

<推古天皇の時代>

○616年(推古紀24年)

- 3月, 掖玖人三口帰化・・・屋久人3人が帰化した
- 5月, 夜句人七口来之・・・屋久人7人がやってきた
- 7月, 亦掖玖人廿口来之, 先後併卅人, 皆安置於朴井, 未及還皆死焉
 - ・・・また屋久人20人がきた。あとさき合わせて30人になり, 全員を朴井(えのい)と言うところに安置していたが, いまだ帰還しないうちに全員が死んでしまった

○620年(推古紀28年)

- 8月, 掖玖人二口, 流来於伊豆島・・・屋久人二人が, 伊豆島に漂着してきた

<舒明天皇の時代>

○629年(舒明紀元年)

- 4月, 遣田部連於掖玖・・・田部連を, 屋久へ遣わす

○630年(舒明紀2年)

- 9月, 田部連等至自掖玖・・・田部連等, 屋久より至る

○631年(舒明紀3年)

- 2月, 掖玖人帰化・・・屋久人が帰化した

3. 屋久島の杉はいつから世間に知られるようになったのでしょうか

○『日葡辞書』に見える「ヤクイタ」

- ・・・「屋根を葺くのに用いる小さな板。屋久の島というある島より運ばれてくるので, この名がある」

○大隅正八幡宮（鹿児島神宮）境内の石碑の記録

・・・1,560年（永禄三年）、造替のため屋久島から杉・檜を運んだ。同63年屋久島杉の種を同社の山に蒔くと伝える

○豊臣政権が方広寺大仏殿造営で、1587年（天正15年）島津氏に命じて杉を調べさせたという

○李時珍『本草綱目』（1596年刊）に貴重な杉で高価で腐りにくいと紹介

○松江重頼の俳論書『毛吹草』（1638年序）に名物として「ヤクノ島樽板」

4. 屋久杉伐採をめぐる泊如竹（1570～1655）の教え

○屋久杉の特徴を島人はよく理解していた

○如竹は、江戸、京都、鹿児島、琉球を回り、屋久杉が重宝されるのを知っていた

○巨木には神がやどるという信仰が屋久島にはあった

○目当ての樹に斧を立てかけて神意をうかがう

①斧が倒れていなければその樹は伐ってもよい

②斧が倒れていたら伐ってはいけない（神の許しがない）

※島民の信仰心を尊重しながら、神の祟りからの呪縛を解放しつつ屋久杉の伐採に制限を加えたという理解が正しいのではないか

5. 屋久島の領主は種子島氏か島津氏のいずれ

○1408（応永15）年、島津元久の命で種子島氏が屋久島・口永良部の領主

○1595年（文禄4年）種子島氏は領地替え（知覧へ）、屋久島は島津氏の支配

○島津義久・義弘の文禄四年屋久島置目

・御公儀や島津藩の用材の場合はいくらかでも材木を上納する

・島津領国外へ材木は出さず、他国からの材木船を屋久島に入港させない

・屋久島のことは従前のごとく使者を下して沙汰する

・大仏用材木として探索し記録された諸木は、とくに留意する

・材木の商売はこれまでどおりに分別制限する

○1599（慶長4）年種子島氏は種子島に復帰、屋久島は島津氏が借りる

○1612（慶長17）年、島津氏の屋久島直轄支配が始まる

○江戸時代島津氏により屋久島は独占支配をうける

・屋久島代官・屋久島奉行による支配

・宝永5（1708）年以降は奉行が交代で在島

○山役、浦役、夫役を屋久島では平木で納めた

○屋久島杉など諸木の密売（抜け荷）は禁止されていた

○杉や諸木は島津藩が買い上げてくれて、生活物資が給付された

6. 島民の暮らしは海が中心だったと言えそう

- 山中ではなく海岸部に集落を作った
- 漁場としての海をととても大事にしていた
 - ・山の恵みで海は魚類や海産物が豊富だった（山を荒らしてはいけない）
 - ・魚付き林（山黒味）を大切に守り植林さえした
 - ・浜砂や潮水をもって山の神に豊漁を祈る岳参りを続けた
 - ・魚を求めて屋久島近海で操業する他国船とも共存していた

7. 異文化交流に積極的だった屋久島の各集落

- 地理的に孤立した小さな集落生活
 - 隣村に数人以上で出かけるなら船で行く
 - ・・・→村ごとに言葉（方言）や習慣が異なる
 - ・・・→他の村の個性を尊重し、交流を重ねた
 - ・・・→近隣の島々や沖縄・本土との交流も大事
 - 集落文化のなかに島文化も育てられている
- ※南方系北方系の文化が屋久島では混在，交流で得た知識や技術を生活に取り込む
- 楠川区の盆踊り
 - 湯泊区の傘踊り
 - 永田区の飛び魚招きなど，など

8. 近世から近代への歩みによせて

- 江戸時代には，屋久島の林産資源を薩摩藩島津家が独占した
- 明治以後は，日本国政府が屋久島の森林資源を開発して島外へ持ち出した

※島民は近世・近代にわたって，屋久杉を中心とする木材の伐採・搬出の労働力として使われ，海産資源に頼る暮らしを余儀なくされてきたのではないのでしょうか

(メモ)